北海学園大学

日本語教員養成課程

『報告書』第３号

北海学園大学
2017年３月

目　次

1. 国内・海外での日本語教育実習体験を振り返って　（中川かず子）…… 2

2. 日本語教員養成課程の新基準と本学の対応をめぐって（菅　泰雄)…… 4

3. 2016 年度　韓国大田大学実習日程表（黒木了二・姜　蓮華）…… 7

4. 大田大学での実習研修に参加して（参加者による報告)…… 10
   1）浅海宏一郎（英米文化学科　4 年）
   2）志村　瑠美（日本文化学科　3 年）
   3）鈴木　直人（日本文化学科　3 年）
   4）高橋　雅人（日本文化学科　3 年）
   5）田中　悠太（英米文化学科　3 年）
   6）松田ことみ（日本文化学科　4 年）
   7）黄倉　陽一（日本文化学科　4 年）

5. 市内ボランティア日本語教室での研修 …… 24
   1）実習授業（初級Ⅰクラス）日程表、シラバス一覧
   2）参加者報告
      太田　莉央（英米文化学科　3 年）

6. 大田大学にて使用した ppt 教材の一部（「日本文化」の授業）…… 27

7. 卒業生の海外レポート　No.3
「日本語パートナーズ・プログラム」に参加して
      岡田　佳子（日本文化学科　2016 年 3 月卒）…… 31

国内、海外での日本語教育実習体験を振り返って

―参加学生達の実習報告、ポートフォリオから感じたこと―

日本語教員養成課程委員長・人文学部教授　**中川かず子**

2014年4月より人文学部では新しいカリキュラムが始まりましたが、その中に日本語教員養成課程に関係する新設科目も含まれています。それは「日本語教育特別演習」（旧カリでは「日本語教育演習Ⅱ」の読み替え可）という、国内または海外の日本語教育機関で実習を行うよう組み立てられた科目であり、1、2部の3年生以上を対象としています。

ご存知のように、2000年3月以降の文化庁新ガイドライン（1985年から改訂）では幅広い専門知識の獲得と実践能力の強化が謳われ、そのために全国の日本語教員養成課程を有する大学では「実習」授業の重要性が広く認識されるようになりました。本学においても、課程科目における教育関連授業（「日本語教授法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」など）の実践的側面の重視、地域社会あるいは海外での教育実習経験の促進、体験的学習の場の提供をこれまで以上に積極的に行なう必要性を感じていました。そのような中で、2005年、2014年の人文学部カリキュラム改革に合わせて課程教育内容が見直されるようになりました。漸く、2014年から上で述べた「日本語教育特別演習」という実習科目を設置することができ、日本語教育現場での体験的授業が可能になりました。

今回の『日本語教員養成課程報告書』第3号では、今年度初めて実施した国内（市内の日本語ボランティア教室）と海外（韓国大田大学）における実習体験を学生達のレポートから振り返り、総括します。初めにそれぞれの実習授業の概要から説明します。

まず、国内の実習に参加した学生は今年度1名のみでした。市内北区の市民活動拠点の一つを会場に二十年近く運営する、ボランティア日本語教室「たんぽぽ」の秋講座の初級Ⅰクラス【9月16日～12月9日、毎週金曜日10時半～12時（ほかに、12：30～16：00まで初級Ⅱ、中級クラスがある）、計13回】に参加してもらいました。実習内容は、チームティーチング、見学、授業、反省会という活動に参加する一方、教材、教案の作成、授業（見学及び補助、担当）の記録（毎回）と代表者からのフィードバックをポートフォリオ（ファイル）にして提出する課題も義務付けられています。参加した英米文化3年生の太田莉央さんは、毎週金曜日午前中の初級クラスに配属され、上の課題をしっかりこなしてきました。ポートフォリオの中の授業記録を読むと、毎回の授業で学習者から出た質問や疑問に、日本語の難しさと面白さを改めて知らされる様子が窺えます。例えば、レストランでの会話場面で、店員（お飲み物はいかがですか？／何名様ですか）と客（飲み物はいりません／2名です）の日本語がなぜ違うのか混乱する学習者がいたことに新鮮な驚きを感じたとあります。のちほど、太田さんの体験レポートからどのような学びがあったのか読んでいただきたいと思います。ボランティア日本語教室に来る学習者数、国籍は時期やレベルによって異なり、今期の場合、3クラスの概要は次の通りです――　①初級Ⅰ【13名、国籍：中国（2）、台湾

(2)、韓国、ベトナム（2)、アフガニスタン、ザンビア、ドイツ（2)、アメリカ、オーストラリア】、②初級Ⅱ【9名、国籍：ベトナム（4)、タイ、台湾、フランス、ポーランド、アメリカ（ハワイ)】、③中級【4名、国籍：アメリカ、コロンビア、台湾、ベトナム】 これら3クラスを担当するボランティア教員はそれぞれ3人〜5人、TAも3人〜5人配属され、チームワークよく授業が運営されています。

次に、韓国大田大学の実習には7名（1、2部から男子5名、女子2名）が参加しました。大田大学のある大田広域市はソウルから約160キロ、高速バスで2時間半、高速鉄道（KTX）で1時間のところにあります。10月24日（月）〜11月4日（金）までの2週間にわたり大田大学での実習（日程表を参照）と大田市内、ソウル市内、近郊の文化村等の見学を行ないました。あとでも述べますが、大田大学には熊本学園大学、北海商科大学、北海学園大学から1年間の交換留学生、短期の研修留学生もいて、キャンパスで日本人をよく見かけますが、ほとんどが女子学生でした。今回のメンバーは男子が多かったことからか、上級クラスでの自由討論で積極的な態度が見られ、話題が政治に及ぶこともあるなど、これまでになく活気があったと大田大学の黒木了二先生は話してくれました。宿泊は民間のホテル（東横イン大田市庁舎前）を利用し、毎日ホテルから大田大学まで地下鉄、バス、時にはタクシーで往復しました。大田大学のキャンパスは広く、構内の移動だけでも迷いますが、韓国人学生の同伴仲間（バディ）の協力で参加学生は自由にキャンパス内と学外の移動が可能になったと思います。学生達のレポートにも、バディにお世話になったこと、彼らのおかげで韓国の滞在が無事にかつ楽しく送れたことが記されています。

「日本語教育特別演習」について総括すると、まず、市内のボランティア教室の場合、実習を受け入れたのが初めてであったことから多少の混乱はあったようですが、クラス担当者をはじめ、教室の関係者全員が試行錯誤しながら実習生を盛り立ててくれました。13回にわたる授業と反省会への参加は、実習生にとってまさにインターンの役割が果たせたと言えます。ただ、これで十分な経験ができたわけではないので、日本語教師を希望するならば、引き続き教室の活動に参加することが望ましいと思います。一方、韓国大田大学での実習の場合、大学の担当教員2名のほか、受け入れ学科長が実習プログラムの企画、運営に慣れており、日程の作成、初級、中級等のレベル別授業の配分、実習生の指導などを的確に行なってくれました。さらに、韓国人学習者も実習生に対し、授業中は教師として敬意をもって接し、授業後には仲間として優しく接してくれました。参加学生にとって、初めての韓国での実習経験を通し大きな学びと感動が得られたことは収穫だったと思います。このことから、受け入れ校の教師、学習者、さらには国際交流課の職員の協力的な態度や行動なくして海外実習は成功しないだろうと感じました。

第一回の国内と海外の実習が無事に終わり、間もなく第二回に向けて準備が始まります。昨年度の経験を基に、今年度もよりよい成果が得られるよう、関係各位、参加学生の協力をお願いしたいと思います。

日本語教員養成課程の新基準と本学の対応をめぐって

人文学部教授・日本語教員養成課程委員　菅　　泰雄

1.「日本語教育機関の告示基準」と大学の「日本語教員養成課程」

平成 28 年度、日本語教員養成課程に関わる大きな変化がありました。在留資格として「留学」を付与される留学生を受け入れることができる日本語教育機関の基準を法務省が定めたことによるものです。この「日本語教育機関の告示基準」（以下、「新基準」という。）は平成 28 年 7 月に公示され、平成 29 年 8 月 1 日から施行されます。この新基準では日本語教育機関における日本語教員の要件を定めており、それにそったかたちで各大学の日本語教員養成課程に対して、その対応を求めるものです。

この通知が文化庁・文部科学省から届いたのは 11 月の中旬のことでした。そして、この新基準は平成 29 年 4 月以降に入学する学生から適用するというものです。11 月というと、すでに各大学では新年度に関わる制度改正などがあらかた決められつつあるころで、そのような時期に突然このような通知が来たのです。急いでその対応をしなければならなくなりました。

本学の日本語教員養成課程に関わる要件として、次の 3 点があります。

1.「日本語教育のための教員養成について」（文化庁、平成 12 年 3 月）で示された「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の五つの区分にわたって授業科目が設定されていること。
2. 教育実習 1 単位以上を含むこと。
3. 大学が発行する証明書等において、新基準及び解釈指針が示す日本語教員の要件を満たしていることが確認できること。

つまり、今回の法務省による公示は、日本語教育機関には、一定の水準を満たした「養成課程」を修了した「日本語教員」がいなければならない（その詳細な要件については、ここでは省略します）。いわば素人が日本語を教えている「日本語教育機関」で日本語を学ぶことは「留学」とは認めないという、厳格化の流れにそったものだと考えられます。

これは、現在残念ながら法務省のいう「留学」に値しない「日本語教育機関」と称する機関が世の中に存在するのだと解釈されます。しかし、これを日本語教員の専門性、社会的評価をさらに向上させる上で、良い機会と前向きに捉えるべきでしょう。

2. 本学の対応

まず、要件の１については、これまでも本学の課程はその要件を満たしていましたが、平成 12 年３月の「日本語教育のための教員養成について」に示された「言語領域、教育領域、社会・文化・地域領域」の３つの領域に即して、授業科目を設定していました。本学では、さらに外国語の領域を加えて、合計４つの区分になっていました。その領域の下位区分として、５つの区分に分けられていたのですが、これを新年度から、新基準の要件に合わせて、５つの区分として再編成することにしました。

その際、今回の改正に合わせて「英語学特論Ⅰ・Ⅱ」を言語の区分に追加することで、英米文化学科の学生に配慮しましたが、実質的な変更はありません。

次に、要件の２についてですが、これは 2017 年度に完成年度を迎える人文学部の新カリキュラムに「日本語教育特別演習」（海外および国内での教育実習）を設置し、今年度初めて韓国の大田大学校で実施したところです。この報告レポートは、本号に特集されています。ということで、この要件も問題なく満たしています。

新基準では、「実習」が重視されています。国語や英語などの教職課程では、「実習」が必修であるにもかかわらず、本学の日本語教員養成課程には、「実習」がそれまでなかったことは大きな課題であったのですが、実習先、学生の派遣、それに伴う引率など諸問題が解決し、新カリキュラムに組み入れることができたのです。もし、この科目が設定されていなかったら、今回の通知に対応できず、本学の課程は認められないという最悪の事態を招いていたかもしれません。正直、ホッとしています。

最後の要件３については、今後、その要件を満たした修了書のフォーマットを時間をかけて検討することができます。

3. 今後の本学における日本語教員養成の課題

以上のように、今回の通知に対して、本学の日本語教員養成課程は無事に対応できることになったわけですが、教員養成をめぐっては国語や英語などの教職課程について、これまで教職課程の設置が認められていた大学でも、近々再認定を受けることになっており、本学でもその対応をすべく準備が進められているところです。

また、学部教育でも、シラバスの厳格化などが求められており、学生に対して予習、復習など自主的学習をさせるような配慮されているかなど、文部科学省による細かな「指導」が入っています。なぜ、このような事態になっているかを改めて考える必要があります。

話を日本語教員養成に戻しますと、先にも述べました通り、今回の基準では「実習」が重視されています。ただし、その科目の設置が必要とされているだけで、必修とすべきとまではなっていません。当然のことながら教職課程では必修になっているわけですから、今後、必修となっても不思議ではありません。

本学の日本語教員養成課程は、必修科目は最低限に抑えていますが、例えば、平成 12 年３月の「日本語教育のための教員養成について」では「日本語教員の専門的能力について」として、「（ア）言語に関する知識・能力　外国語の学習者の母語（第一言語）に関する知識、対照言語学的視点からの日本語構造に関する知識、そして言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識があ

り、それらの知識を活用する能力を有すること。」とあります。

この中で、たとえば「日本語の構造」という点について言えば、現在本学の課程では「日本語学概論」を必修としているだけですが、これで十分かということも、将来出てくるかもしれません。制度上は「日本語学特論」などを履修しなくても、修了できる形になっているからです。これに限らず、「対照言語学」なども履修する必要になるかもしれません。言語発達、言語習得など日本語教員に求められていることは幅広いですし、専門的能力というからには、「ある程度」の深い知識が求められていることを自覚して、単に最小限度の単位を取得して修了するのではなく、より質の高い日本語教員を目指して履修してほしいと思います。

文化庁の教員養成に関する調査会答申「日本語教員養成において必要とされる教育内容」

（平成 12 年 3 月 30 日公開された内容）

	領　域	区　　分		内　　容
コミュニケーション	社会・文化・地域に関わる領域	①社会・文化・地域	世界と日本	歴史/文化/文明/社会/教育/哲学/国際関係/日本事情/日本文学……
			異文化接触	国際協力/文化交流/留学生政策/移民・難民政策/研修生受入政策/外国人児童生徒/帰国児童生徒/地域協力/精神衛生……
			日本語教育の歴史と現状	日本語教育史/言語政策/教員養成/学習者の多様化/教育哲学/学習者の推移/日本語試験/各国語試験/世界各地域の日本語教育事情/日本各地域の日本語教育事情……
		②言語と社会	言語と社会の関係	ことばと文化/社会言語学/社会文化能力/言語接触/言語管理/言語政策/言語社会学/教育哲学/教育社会学/教育制度……
			言語使用と社会	言語変種/ジェンダー差・世代差/地域言語/待遇・ポライトネス/言語・非言語行動/コミュニケーション・ストラテジー/地域生活関連情報……
			異文化コミュニケーションと社会	異文化受容・適応/言語・文化相対主義/自文化（自民族）中心主義/アイデンティティ/多文化主義/異文化間トレランス/言語イデオロギー/言語選択……
	教育に関わる領域	③言語と心理	言語理解の過程	言語理解/談話理解/予測・推測能力/記憶/視点/言語学習……
			言語習得・発達	幼児言語/習得過程（第一言語・第二言語）/中間言語/言語喪失/バイリンガリズム/学習過程/学習者タイプ/学習ストラテジー……
			異文化理解と心理	異文化間心理学/社会的スキル/集団主義/教育心理/日本語の学習・教育の情意的側面……
		④言語と教育	言語教育法・実習	実践的知識/実践的能力/自己点検能力/カリキュラム/コースデザイン/教室活動/教授法/評価法/学習者情報/教育実習/教育環境/地域別・年齢別日本語教育法/教育情報/ニーズ分析/誤用分析/教材分析・開発……
			異文化間教育・コミュニケーション教育	異文化間教育/多文化教育/国際・比較教育/国際理解教育/コミュニケーション教育/スピーチ・コミュニケーション/異文化コミュニケーション訓練/開発コミュニケーション/異文化マネージメント/異文化心理/教育心理/言語間対照/学習者の権利……
			言語教育と情報	教材開発/教材選択/教育工学/システム工学/統計処理/メディア・リテラシー/情報リテラシー/マルチメディア……
	言語に関わる領域	⑤言語	言語の構造一般	一般言語学/世界の諸言語/言語の類型/音声的類型/形態（語彙）的類型/統語的類型/意味論的類型/語用論的類型/音声と文法……
			日本語の構造	日本語の系統/日本語の構造/音韻体系/形態・語彙体系/文法体系/意味体系/語用論的規範/表記/日本語史……
			言語研究	理論言語学/応用言語学/情報学/社会言語学/心理言語学/認知言語学/言語地理学/対照言語学/計量言語学/歴史言語学/コミュニケーション学……
			コミュニケーション能力	受容・理解能力/表出能力/言語運用能力/談話構成能力/議論能力/社会文化能力/対人関係能力/異文化調整能力……

（備考）

1　領域：コミュニケーションを核として、「社会・文化に関わる領域」、「教育に関わる領域」、「言語に関わる領域」の 3 つの領域からなり、それぞれはあえて明確な線引きは行わず、段階的に緩やかな関係ととらえ、また優先順位を設けず、いずれも等価と位置付ける。

2　区分：上記 3 領域の区分として、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の 5 区分を設ける。また、各々の下位の区分として、3〜4 区分を設定し、教育内容の位置付けや、日本語教員養成課程等で具体的に開設される科目等との対応付けを行うための目安とした。

3　内容・キーワード：下位の区分として 16 区分を設け、各々に、日本語教員養成において必要とされる教育内容を記述した。また、各々の教育内容について具体的な教育細目をイメージしやすくするため、キーワードを設定した。なお、内容及びキーワードは、大学・日本語教育施設等での日本語教員養成課程において開設される科目等とのマッチングを行う際の目安として記述したものであり、教員養成における教育課程編成に際して、教育内容の諸項目を網羅的に行うことを前提としたものではない。

北海学園大学実習日程・実習時間表

実習授業期間【10 月 24 日（月）～11 月 4 日（金）】

大田大学　総括担当・実習指導：黒木了二／実習指導：姜　蓮華

第 1 週目（10 月 24 日～10 月 30 日）の日程

時間／日付	10/24（月）大田入り	10/25（火）交流日①	10/26（水）見学日①	10/27（木）見学日②	10/28（金）実習日①交流日②	10/29～30（土・日）
1 限目 09：00 ～ 09：50	午前 9 時 新千歳空港出発	○ 9 時、 ホテル～大田大へ移動 （バディーが案内）	日本語初級会話 02 （姜蓮華） 6B121 号 授業見学 実習生全員	午前 9 時頃にホテルから大田大学へ交通機関を使って移動	高級日本語会話 01 （黒木） 6530 号教室 1 限目実習生 松田ことみ①	29 日（土） 歴史遺跡探訪 旅行予定 バディーが 交通移動案内
2 限目 10：00 ～ 10：50	（韓国へ移動）	○ 10 時 40 分 人文社会館 1 階中央ロビー到着。学科事務室案内			高級日本語会話 02 （姜蓮華） 6304 号教室 実習授業	
3 限目 11：00 ～ 11：50		○ 11 時に国際交流院で挨拶	休　憩	日本語初級会話 01 （黒木） 6530 号教室 授業見学 実習生全員	2 限目実習生 黄倉陽一① 3 限目実習生 浅海宏一郎①	
4 限目 12：00 ～ 12：50		バディーとキャンパスツアー後、12 時昼食の予定 （学食予定）	午後から自由行動時間 買い物や学校近辺、市内への自由行動	日本語初級作文 実習 （黒木） 6530 号教室 授業見学 実習生全員	実習指導 6216 号 姜研究室 中川・姜　指導 （黄倉、浅海）	
5 限目 13：00 ～ 13：50	午後 1 時 仁川空港到着 出迎えの バディー学生と 合流後、昼食	食事後、 休憩時間	交通案内は バディー担当で行う	昼食・休憩	昼食・休憩	

6限目 14：00 〜 14：50	（大田市へ移動） 午後5時頃 大田市のホテル に到着予定 （ホテルで 休憩時間） 午後6時に ホテルにて挨拶 市内の料理店で 歓迎会会食 会食後、 1日目終了		自由行動終了後、 ホテルへ移動 3日目終了	教案作成 指導・会議 実習生全員 6号館 6229号室（日 文科準備室）	日本語初級作文 01（黒木） 6530教室 実習生と国際言 語学科の学生同 士の交流時間② 実習生全員	30日（日） 中川先生 ソウルへ移動 希望する実習生 もソウルで観光 予定 中川先生 午前中に 大田出発、帰国
7限目 15：00 〜 15：50		高級日本語会話 01（黒木） 6B102教室 実習生と日語日 文学科の学生同 士の交流時間① 実習生全員参加		指導後、各自実 習授業準備 終了後、ホテル へ移動 4日目終了		
8限目 16：00 〜 16：50					実習評価指導 6522号研究室 中川・黒木指導 （松田）	
9限目 17：00 〜 17：50		交流会後、 意見交換会 実習生全員 6号館 6229号室 （日文科準備室）			5日目 （実習1週目） 終了 ホテルへ移動	
18：00 以降		2日目終了 ホテルへ移動				
備　考	会食参加者 北海学園大8名 大田大5名	昼食は、国際交 流院の管轄。交 流会は黒木が主 導	自由行動は、実 習生の希望で、 バディーが案内 予定	教案教作成は持 参のノートパソ コンで作成する こと	実習1日目 実習指導は国際 言語（日語日文） 学科の主導で行 う	旅行と見送りは 国際交流院協力

第2週目（10月31日〜11月4日）の日程

時間／ 日付	10/31（月） 実習日②		11/1（火） 実習日③	11/2（水） 実習日④	11/3（木） 実習日⑤	11/4（金） 市内観光	11/5（土） 帰国
1限目 09：00 〜 09：50	ホテルから 大田大学へ移動、 9時45分まで に大学に到着		日本語初級会話 01 （黒木） 6530号教室 実習授業 1限目実習 高橋雅人① 2限目実習 田中悠太②	日本語初級会話 02 （姜蓮華） 6B121号教室 実習授業 1限目実習生 志村瑠美② 2限目実習生 浅海宏一郎②	午前9時頃にホ テルから大田大 学へ交通機関を 使って移動 10時45分まで に大学に到着	大田市内観光	日本帰国準備日
2限目 10：00 〜 10：50	日本語初級会話 02 （姜蓮華） 6304号 実習生： 黄倉陽一②						
3限目 11：00 〜 11：50	高級 日本語 会話 02 （姜） 6B102 号教室 実習生 志村 瑠美①	コミュ ニケー ション 日本語 2 （黒木） 22226 号教室 実習生 田中 悠太①	実習評価指導 6522号研究室 （黒木指導） （高橋、田中）	実習評価指導 6216号 姜研究室 （姜指導） （志村、浅海）	日本語初級会話 01（黒木） 6530号教室 実習授業 実習生 鈴木直人②		

4限目 12：00 ～ 12：50	コミュニケーション日本語2 （黒木） 30周年記念館 226号教室 4限目実習生 松田ことみ②	昼食	午後から自由行動時間 買い物や学校近辺、市内への自由行動 交通案内はバディー担当で行う	昼食・休憩	大田市内観光	日本帰国準備日
5限目 13：00 ～ 13：50	実習評価指導 6522号研究室 （黒木指導） （田中、松田）			実習評価指導 6522号研究室 （黒木指導） （鈴木）		
6限目 14：00 ～ 14：50		休憩	自由行動終了後、ホテルへ移動 8日目終了	休憩 および 自由行動時間	市内観光終了後、ホテルへ移動 実習日程 全過程終了	
7限目 15：00 ～ 15：50	実習評価指導 6216号 姜研究室 （姜指導） （黄倉、志村）	高級日本語会話01 （黒木） 6B102教室 7限目実習 鈴木直人① 8限目実習 高橋雅人②				
8限目 16：00 ～ 16：50	6日目終了 ホテルへ移動					
9限目 17：00 ～ 17：50		実習指導 6522号 黒木研究室 （黒木指導） （鈴木、高橋）				
18：00 以降		7日目終了 ホテルへ移動		6時 送別会・会食 （韓国料理店） 国際交流院、国際言語学科、関係学生参加		
備　考	実習2日目	実習3日目	実習4日目 自由行動は、実習生の希望で、バディーが案内予定	実習5日目 （最終日） 送別会の食事会は国際交流院の主管	市内観光はバディーと一緒に自由行動（国際交流院の協力） 実習全日程終了	

大田大学での実習研修に参加して
（参加者による報告）

大田大学で日本語教育実習研修に参加して

浅海宏一郎
（英米文化学科４年）

私は、韓国の大田大学で 2016 年 10 月 24 日から 11 月 5 日までの約 2 週間の日本語教育実習研修に参加した。参加した動機は、1 年生のときから日本語教員養成課程で学んできたことを生かして外国人に対して 1 人で授業をしてみたかったからというのはもちろんだが、それよりも、これまでに一度も海外に行ったことがなかったため、学生時代のうちに一度は海外経験をしてみたかったから、というのが一番大きな目的である。

日本にいる間に教案や教材を作成したがこのときに意識したことは、いかに学生たちの興味・関心を引き出すことができるかということと、学生たちが日本に来たときにすぐに学んだことを生かせるようにすることである。そのために、授業で使用するためのパワーポイントの文字や背景に複数の色を使ったり、教材用の地図は Yahoo の地図をそのままコピーして使用するなどの工夫を行った。しかし、授業の前に大田大学の黒木先生に教案や教材を確認していただいた際に、かなり見にくいので、直した方が良いというアドバイスをいただいた。ここで、学生たちの興味や関心を引き出すことや実用的な内容であることを意識し過ぎて、学生たちが理解しやすいかどうかという最も重要なことを忘れていたことに気がついた。

1 回目の授業では、中上級のクラスで結婚をテーマにフリートーキングを行った。内容は、まず最初に前回の授業で学習した語彙の復習を行い、その後、フリートーキングに移った。フリートーキングでは、全員に 1 枚ずつ付箋を配り、付箋に自分が結婚相手に望む条件を書いてもらい、それをもとにグループごとに話し合いをして、最終的にランキングを作成した。最初のうちは学生たちの前では笑顔で明るく振る舞おうと意識していたが、緊張のあまり、笑顔がどんどん消えていったのが自分でもわかった。また、緊張のせいで教案とは違うことをやろうとして、混乱することもあった。

授業の中で一番難しいと感じたことは、指示を出すことだった。自分が出した指示と違うことをする学生がいて、担任の姜先生が代わりに韓国語で伝えてくださったこともあった。指示を出すときには、はっきりと明確に伝えることとわかりやすい言葉を選んで使った方が良いということを学んだ。また、授業中に教室内を巡回して、学生たちの様子を見ることを意識していたが、その点についての評価が良かったので、次回も取り入れようと考えた。

２回目の授業では、初級のクラスで道案内についての授業を行った。この授業では導入に時間を掛けすぎてしまい、遅れを取り戻そうとして、逆に８分も時間を余らせてしまうというミスをしてしまった。前回と同じく、緊張によって冷静さを失ってしまったのである。授業の後のフィードバックでは、この時間配分の問題のほかに、教師は教室内の巡回をするよりも、教壇から学生たちの様子を見た方が良いというアドバイスをいただいた。授業内容によって教師の立ち位置を変えた方が良いということがわかった。一方で、前回よりも教えているときの表情が良くなったというお褒めの言葉をいただいた。２回目の授業では失敗した点もあったものの、前回より改善した点もあったことから、今回の反省を生かしつつまた授業をやってみたいと思うようになった。

今回の研修では、授業以外でも私たちのバディーを務めてくれた学生のほかに、多くの大田大学の学生たちと交流することができた。これまでに韓国人と交流する機会がなく、最近では日韓関係が良好ではないことから、あまり歓迎されないのではないかと不安だったが、初日から彼らに助けられ、彼らのおかげで毎日楽しく過ごすことができ、無事に全日程を終えることができた。彼らの中には、私が授業で教えた学生もいて、私が教えた表現を使っているのを聞いたときには本当にうれしく思った。この経験から、もっと日本語を教えたいと思うようになった。

最後に、ご指導いただいた姜先生、黒木先生、中川先生、それにお世話になった学生たちに感謝の意を表したい。

ソウル駅正面の前で

バディ（同行した韓国学生）と韓国のランチを楽しむ

韓国大田大学で日本語教育実習研修に参加して

志村　瑠美
（日本文化学科３年）

私は日本語教育の実習を行うために、北海学園大学と提携校である韓国の大田大学に二週間の教育実習研修へ行きました。

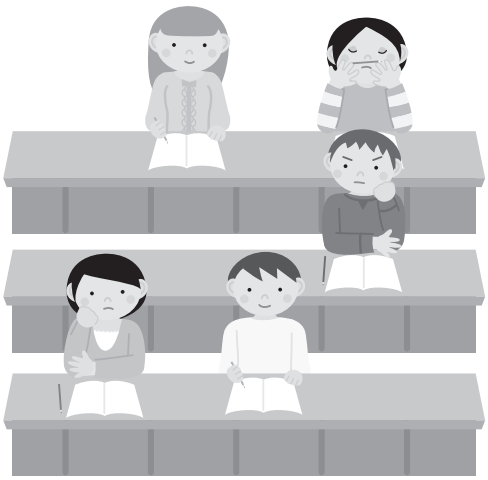
第１週目は大田大学の日本語受講者の学生たちの授業見学と、大田大学で日本語を学ぶ学生たちと交流を深めました。第２週目は１コマ50分のお時間をいただいて、１人２コマ実際に教壇に立ち授業を行い、大田大学の先生に自分の授業をみてもらうという非常に貴重な経験をさせていただきました。

日本にいる間に事前に準備はしたものの教案通りに授業をすることの難しさや、学習者にわかりやすいように教える大変さ、また人に何かを教える、伝えることの楽しさや喜びを学ぶことができました。

また週末には韓国での慣れない生活をおくる私たちを支えてくれた大田大学の学生たちと共に大田市の散策、ソウルや全州へ観光に行きました。そこではバディの方が観光地の説明や、昼食や夕食などのお店など実習生のためにとても親切にしてくださり、彼らと交流を深めました。

実習から数ヶ月たった今でもたまにSNSを通じてやり取りをするなどしています。同年代の自分とは違った文化を持つ人と交流する機会はなかなかないので、今回の実習では日本語教育を学ぶ以外にも得たものがあり短いながらも非常に充実した二週間をおくることができました。

今回が日本語教育実習研修の第一回目ということもあり双方の間ですれ違いが生じるなどといったハプニングもありましたが、大田大学の先生方や学生の方々のおかげで無事に二週間の日本語教育実習研修を終えることができました。



初級クラスの授業で（担当は韓国の先生）

大田大学でのコンサート

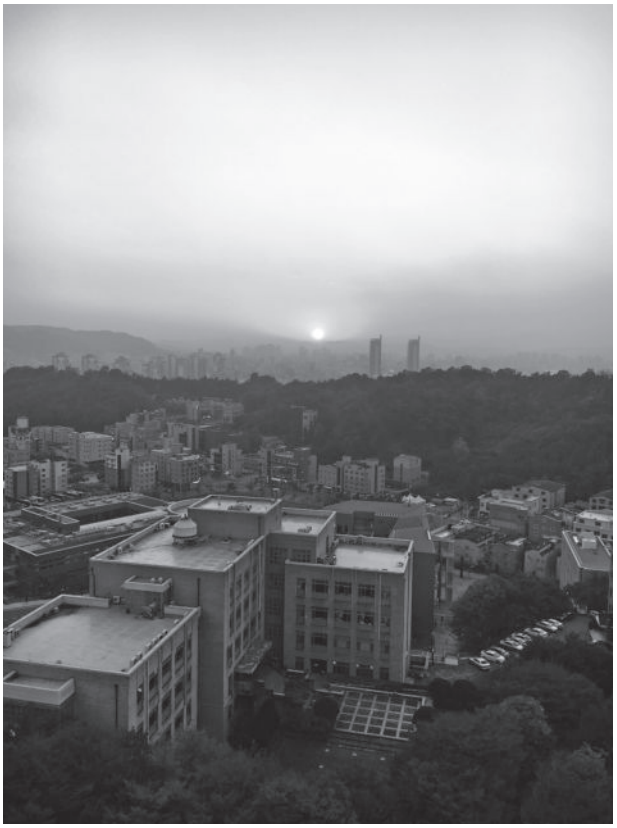
大田大学の記念講堂（夕方撮影）

大田大学で日本語教育実習研修に参加して

鈴木　直人
（日本文化学科３年）

2016 年 10 月 24 日から 11 月 4 日までの 11 日間の実習で、韓国の国民性や芸術、食事や習慣など、様々な文化に触れさせていただき、本当に充実した実習だった。そして、その中でも、大田大学で日本語を学んでいる学生の方々に授業をさせていただいたことが強く印象に残っている。初級会話と高級会話の２コマを担当したが、初級のクラスでは、スポーツと政治を混ぜながら展開できればと考え、高級のクラスでは、日本の国技である相撲を紹介し、掘り下げていきたいなと考えていた。黒木先生に教案のチェック、授業の評価をしていただいて、良かった点、改善すべき点など多くのアドバイスをいただいた。

黒木先生から、強調してご指摘いただいたのが、「日韓の政治」というテーマを授業で取り扱うということの危険性についてであった。私たちの世代が日韓の歴史を見つめ直し、意見を交わすことは良いことだと言っていただけたが、同時に、議論が白熱し論争になっていた可能性は十分あり得たというご指摘をいただいた。そして、私自身は聞こえなかったが、ある１人の生徒が「（日韓関係の完全な修復には）あと 20 年かかる。」と小さな声でつぶやいていたと黒木先生から授業後に聞き、その時に、「日韓の政治や歴史」を語り合うのは本当に難しいことだと再認識できたし、笑顔で語り合えるのは、遠い未来なのかなという気がした。


大田大学からの夕日

政治や歴史の話題を取り扱ったのは初級クラスであったが、高級クラスの中には、「日韓の政治や歴史」を独学で長年学んでいる生徒もいるらしく、「有意義な議論への期待」と「過熱した議論になってしまう危険性」の調節が難しかった。授業反省の最後に黒木先生から、こういうことに興味を持っている若者がいてくれるのはうれしいというお言葉は本当に有難く、黒木先生のようにどちらの国にも肩入れしない中立的な歴史観を持ちたいし、そういう人が日韓の懸け橋として必要なのではないかと考える。

高級クラスで取り扱った相撲は、興味のない学生にとってはつらい 90 分間だったかもしれないが、なるべく多くの学生に

しゃべってもらおうと思い、クイズ形式にしてみたり、PPT を有効に使えていた点は良かったという評価をいただけた。そして、私自身も生徒と一緒に楽しみながら授業をするという目標を達成できたと思う。

授業以外で強く印象に残っているのは食文化で、ビビンバやスンドゥブ、サムギョプサルやプルコギ、サムゲタンやタッカンマリなど挙げたらキリがないが、やはり、辛い料理も多く、友人と何度も宿泊先の近くのイタリアンやハンバーガーを食べに行った。韓国での実習から帰国して３か月経った今、無性に韓国料理が食べたくなっているのは私だけではないと思う。芸術では、国立現代美術館ソウル館は素晴らしく、梨花洞は地元住民がアートを消したり迷惑がっているようだが、美しくて楽しい所だった。全州・民族村もとても混んでいて、１つのジャンルとして括れないような色んなものがある場所で、日本人で、韓国への旅行を考えている方には、一番お勧めしたい所である。そして私の移動手段はほとんどタクシーだったが、韓国のタクシーやバスの運転はなかなか荒いがそれも一種の文化で、慣れればなんの問題もなかった。

そして、大田大学の国際交流院の方々、学生の方々に本当に多くのサポートをしていただき、感謝してもしきれない。これは、大袈裟でもなんでもなく、何を聞いても丁寧に説明してくれるし、学生の方々も忙しいのに、必ずどこへ行く時も案内してくれた。私がもう一度、韓国へ行きたいと思う最大の理由が彼らに会いたいという気持ちである。彼らのうちの数人が今年（2017 年）北海学園大学に留学するらしく、本当に待ち遠しい。

最後に、この実習で本当に多くの貴重な経験をさせていただき、ご指導いただいた中川先生、黒木先生、姜蓮華先生、国際交流院のキム・ナヨン先生、ムン先生、そして大田大学の学生の方々に感謝いたします。有難うございました。

国立現代美術館ソウル館

大田大学で日本語教育実習研修に参加して

高橋　雅人
（日本文化学科３年）

今回の研修を通じて、韓国語やハングルに興味を持った。全くと言っていいほど韓国語がわからない状態だったが、この研修で韓国へ行き、現地の学生たちからいくつか韓国語を教えてもらい、もっと韓国語を理解できるようになりたいと思った。他にも韓国の音楽や文化にも興味についても新しい発見がありもっと知りたいと思った。

この研修の目的であった教育実習は、大変良い経験となった。学生の前に立って授業を行うという事が、初めての経験で、準備の時点から大変なことが多かったが、実際に準備をしていた教案をもとに授業を行ってみれば、学生さんたちはまじめで、楽しそうに授業に取り組んでくれて、とても嬉しく、達成感があった。

高級クラスの授業では、直前まで教案を変えたりしたこともあり、時間が少し余ったり、うまくいかなかった点があり、改善が必要だったと思う。

大田大学

大田大学

韓国に行くまでは不安なことが多かったが、現地の学生や先生方はとても親切で気さくで話しやすかったし、日本語も皆さんとても上手だった。

しかし、バスやタクシーの運転手の方があまり親切ではない印象を受けた。

休日は、大田大学の学生さんとソウルに行きました。その中でも印象に残ったのは梨花洞と明洞です。梨花洞にはとくに目立った建物があるというわけではないが、街並みがおしゃれで、あらゆるところに壁画が描かれており、それぞれ人気の撮影スポットになっていた。明洞はとにかく人が多く、賑わっていて、たくさんのグルメやショッピングが楽しめる街だった。

韓国には、もう一度行きたいと思った。今回滞在していた大田もいい場所だったが、次に訪問した時は、今回ゆっくり滞在できなかったソウルを中心に観光したいと思った。そしてソウルだけでなく、今回お世話になった大田大学にも行って、仲良くなった学生や、お世話になった先生にまた会いたいと思う。この研修が自分にとって初めての海外で、不安なことも多かったが、それ以上に貴重な体験ができたので、参加してよかった。

梨花洞

ソウル駅

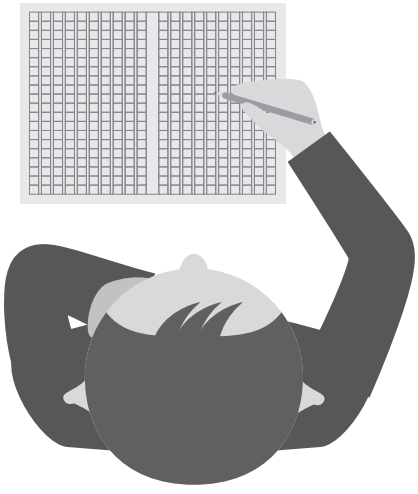
大田大学で日本語教育実習研修に参加して

田中　悠太
（英米文化学科３年）

私は韓国にある大田大学に、10 月 24 日から 11 月 5 日までの間、日本語教員養成課程履修中の学生として、日本語教育実習研修に参加しました。この研修を通して自分は沢山のものを得ることが出来たと感じています。日本語教員として、日本語学習者の前で授業したのは今回が初めてでとても良い経験となりました。その中でも一番の良かった点は、教えることと学ぶことは全く別物であるということを身をもって知ることができたことです。

実際に、授業案を考えていて自分がここは難しいと感じた単元がありました。そこで、その難しいと感じた部分を授業では重点的に教えよう、導入の時間を沢山取ろうと考えていました。しかし、自分が難しいと感じていた部分は韓国人にとってそれほど難しくなかったのです。なぜなら日本語と韓国語という言語の違いはありますが、韓国語にも同じ表現があるからです。私は韓国語に対しては無知ということもあり、その考えはありませんでした。そのため自分は韓国人に対して、分かっていることをひたすら長々と教える形となってしまいました。また口頭で教える場合は複雑なので難しいけれど、物などを用いた場合はそんなに難しくないということも授業後に痛感しました。つまり、一般的な講義型の授業スタイルで教えた場合、これは教えるのは難しいなという考えのみで授業案を作っていました。このことは授業後、担当教員である黒木先生からのフィードバックで気付いたことなので、私の授業を受けていた生徒には申し訳ない気持ちがあります。しかし、このことに気付くことができたのはとても良かったと思っています。次にこのような素晴らしい機会をいただいた際には、同じ失敗を繰り返さないよう頑張りたいと思います。

この他にも反省点は沢山ありますが、良かった点、日本語教師という職のやりがいを感じることができた点もあります。一つはコミュニケーションの授業の冒頭部分、自分のイントロダクションを兼ねて札幌の紹介を PPT を用いて行いました。その時に札幌について興味を持ってくれて、沢山の質問が生徒から出ました。特別に文法を分かりやすく教えたわけではありませんが、これを機に札幌に足を運んでくれる生徒が一人でもいたら、これほど幸せなことはないのだろうかと、生徒が「札幌行ってみたい！」と言ってくれた際に強く感じました。



それを通して一つの考えが自分の中に生まれました。それまでは日本語教師はやりがいはある仕事だとは考えていましたが、なぜやりがいがあるのか、と問われた時

に答えることができませんでした。しかし、この研修を通して自分なりにですが、答えることができるようになりました。なぜなのか、と聞かれると私は、日本と外国の架け橋になることができるからと答えます。どういうことかというと、まず初めに、生徒が嫌いな教員はほとんどいないと思います。嫌いな部分は何か所かあっても最終的には生徒全員が好きでたまらない、それが教員という職だと自分は思っています。好きだからこそ精一杯教えます。教えていく過程で生徒は日本の文化っていいなと感じてくれたら、教員にとってそれはうれしく、やりがいの一つだと思います。それと同時に、教師の方も異文化（今回の場合だと韓国）っていいなと感じると思います。この異文化っていいな、韓国っていいなと感じるのは教員だけではなく、おそらく多くの人が感じるものではないでしょうか。例えば、旅行で札幌に来た韓国人とのコミュニケーションで感じることもあれば、日本人が韓国に行ったときにたまたま日本語が話せるカフェの店員との何気ない会話から生まれる感情もあります。この感情は大小関わらず素晴らしいものであることは間違いないでしょう。そのために日本語という言語、そのために日本語教師という職があって、日本と外国の架け橋となることができたらそれはもう、最高な瞬間だと思います。私は自分の生徒達に日本の良さを世界に沢山伝えてほしいし、逆に私を韓国の良さを沢山伝えていきたいです。私はこれが言語教育での一番のやりがいだと今回の研修を通して思いました。この言語教育においてのやりがいをこれからの自分のモチベーションとし、励んでいけたらと思います。

最後になりましたが、引率してくださった中川先生、担当教員である黒木先生はじめ大田大学の皆さま、私の担当した生徒、今回の研修を支援してくださった全ての方には感謝しきれないほどのサポートをいただきました。本当にありがとうございました。

大田大学バディの皆さんと食堂で乾杯！

大田大学で日本語教育実習研修に参加して

松田ことみ
（日本文化学科４年）

私は、日本語教師になるため、日本語教員養成課程のある北海学園大学に入学をしました。将来は日本語教師として働くことが出来るよう勉強をしながら、大学４年生になるまでに、日本語教師の需要が今とても高い東南アジアや中央アジア圏には個人で旅行に行き、現地の空気を実際に感じてみたりと、大学に入ったたった１つの理由である日本語教師になるために、動いてきました。しかし、実践的なことを考えてみると、私は必修科目内での留学生に対する小規模な模擬授業くらいでしか、実際に教壇に立って外国人の日本語学習者と向き合った経験がありませんでした。しかも、その模擬授業で私はたった数人の留学生を目の前にして、緊張で頭が真っ白になり、思うように授業を進めることができませんでした。そのような状態で、卒業してから日本語教師として本当にやっていけるのかと、その模擬授業以降、今まで揺らがずにいた将来の目標に対して少し不安な気持ちを抱いて過ごしていました。

そんな時に、大田大学への日本語教育実習の誘いをいただきました。外国で日本語を学習している大学生を相手に実際に教壇に立ち、50分の授業ができるということは、国内、小・中・高校における教員志望とは違って、実習経験が義務ではない日本語教員志望にとって、またとないチャンスだと思いました。

正直、韓国は日本語学習者が多いですが、とても近い国の上に、自分は将来東南アジアやそれより以西の地域で働くことを考えていたので、韓国での日本語教育について考えたことがありませんでした。しかし、実際に訪れた大田大学の学生達は、私を含めた参加メンバー全員を驚かせるくらいに、とにかく日本語が上手で、日本が大好きな人達ばかりでした。そして同世代や、むしろ韓国での兵役を経て大学で勉強している学生からすると、私達が年下ということがよくあるにも関わらず、私達に対してしっかりと先生として向き合ってくれて、教壇に立った時は授業をとても真剣に受けてくれました。そんな学生達の中で50分の授業をできたこともあってか、本当に大田大学での授業は楽しくて、私自身の授業においては至らない点も多かったですが、改めて私は日本語教師になりたい、この道でいいのだと自分自身再認識することができました。大田大学で唯一日本人の講師として長く教鞭を執られている黒木先生からいただいたアドバイスは、今後の経験のために自分にとってとても大事な言葉になりました。

また、この研修で忘れられないことは多くの韓国の友達ができたことです。昼休みには韓国人学生と、辛すぎるランチをヒーヒー言いながら食べて、授業が終わった放課後には韓国の街を散策して、週末には大田市から電車でソウル市内へ出向いて観光をしたりするなど、毎日が大田大学の学生達のおかげで本当に楽しかったです。私は、韓国は日本から近いし、日本にとても似ている街並みの印象が出発前はあったので、今まで東南アジアなどを旅行してきた私にとってあまり新鮮味がないのではないかと思い込んでいました。しかし、実際に来てみると、やはり日本と似ていることも多いですが、２週間の生活の中で食文化や礼儀、もちろん街並みにも多くの違いを発見し、楽し

むことができました。韓国に対する印象が帰国の頃には私の中で大きく変わっていました。

未だに、日本と韓国の間には穏やかではないことも多く、互いに嫌い合っていたりする部分や嫌い合う人達は両国に多く存在します。しかし、今回の研修ではこの２カ国間について大田大学の学生と本音で、時には談笑もできました。私が印象的だったのは、そんな私達と韓国の学生達との会話の様子を見ていた、大田大学の黒木先生が「こういった会話は、20 年前だと喧嘩になっていた。今は笑ってこうやって話せているのが嬉しい」といった言葉でした。私たちは日本語教育実習生として滞在しましたが、それ以上の多くのことを学べたと思います。本当に参加できてよかったと思いました。

大田大学キャンパスから撮影した市内

韓定食

韓国大田大学で日本語教育実習研修に参加して

黄倉　陽一
（日本文化学科４年）

私が韓国大田大学での日本語教育実習研修に参加した理由は、実際の日本語教育の現場に立ち入り、その空気に触れるためでした。研修を行ったことで実際の日本語教育の現場、空気に触れられ、今まで学習してきたことの再確認ができ、日本語教育に対する理解が深まったように感じます。

実際に授業をしてみて、多くのことを学びました。一つは直接法で日本語教育を行なう場合の用例の大切さです。初めの授業で説明が多く、説明に用いた語句が学習者に混乱を招いたことを指摘されました。学習者のレベルに合わせた授業ではないと反省するばかりでした。そのため二つめの授業で用例を多く用いるよう努力しましたが、あまり適切な用例を学習者に提示できていなく、理解を促すための用例として工夫が足りていなかったように感じました。次の機会があれば、もっと用例に対して工夫を凝らした授業を行いたいと考えています。

二つ目に学んだことは、クラスあるいは学習者に対する配慮です。クラスでグループが固定されていることに配慮せず、その場で即席のグループを作るようにしたため混乱を招きました。またクラス内の日本語ができる学習者や発話の多い学習者に集中しがちであったことも、反省すべき点であると考えました。もっとクラス全体に行き届き、内向的な学習者などにも配慮し発話を促す授業を作るべきであると感じました。

そのほかにも指示を出す前に注目を集めることや、パワーポイントなどの視覚教材によって興味をあつめること、学習者にもっと多くチャレンジする機会を与えることなど様々なことを学べる研修でした。日本の学校では決して経験できないものであり、今後の自分に役立つものであると確信できる体験でした。

さらに、上で触れた実際の授業での経験以外にも普段の生活では体験できないことが数多くありました。まず第一に、韓国の学生の優しさでした。いきなりクラスに参加した私たちを温かく迎えてくれて、授業だけではなく授業外でも積極的に交流を図ってくれたことはとても良い思い出です。特に、大田大学側が付けてくれた協力学生のバディはこちらが恐縮するほど献身的で、ハングルが読めない私たちに学食のメニューの説明から移動手段の手配、観光スポットの引率等、彼らが居なかったら韓国での生活が成り立たないほどの支援でした。またバディだけではなく、クラスで交流をもった学習者たちも私たちのためにわざわざLINEをダウンロードし、連絡が取れるようにしてくれました。そのおかげで休日や学校終わりに学生がよく行くおいしいお店やおしゃれなお店に連れ出してもらうなど楽しい研修生活をおくれました。特に教えてもらったチキン＆ビールの味は忘れられそうにありません。

学習者との交流を通し、日本語に対する興味や熱意に触れられたことも大きな収穫であったと思います。全員が全員とてもまじめであったわけではありませんが、それでも目を向ければ日本のドラマが好き、歴史が好き、などの興味や日本で働きたい、日本語を使った職業に就きたいなどの目標をもって勉強に励んでいるのだと知りました。当たり前のことですが、強く意識したことがな

かったためとても新鮮で、彼らの興味や目的に沿った授業を用意してあげられるようになりたいと考えるようになりました。

研修全体を通して学ぶべきことが本当にたくさん見つかりました。また普段できない貴重な経験を多く体験できるものでした。今回の日本語教育研修で学習者や担当していただいた先生方から学んだことは、日本語教員を目指すうえで大変役立つものであり、今後の自分にとても有益であると考えています。また勉強になっただけではなく、学習者やバディたちのおかげでとても楽しく、充実したものでもありました。また機会があればもう一度行きたいと思います。そしてその時はもっと長く滞在しもっと多く様々なことを体験できれば良いと思います。

大田大学図書館

特別のチキン＆ビール（イタリアンレストランで）

市内ボランティア日本語教室での研修

「たんぽぽ」日本語クラス　初級Ⅰ　シラバス
（2016年9月16日～12月9日）

担当講師：今井、石井、吉田、江口、岡田／TA：**太田（実習生）**ほか3名

学 習 者：13名（国籍：中国、ドイツ、オーストラリア、アメリカ、アフガニスタン、韓国、台湾、ベトナム、ザンビア）

1課	9/16	よろしくおねがいします 簡単な自己紹介・趣味を話す	（名前）です、（国）の（町）からきました、すみません、お名前（お国）は、もう一度お願いします、趣味はなんですか、（音楽・スポーツ・料理・旅行……）です
2課	9/23	おすしが　すきです 好きなこと（好きじゃないこと）について話す	（日本の食べ物・お酒・映画・動物……）が好きです／好きじゃありません、（音楽……）が好きですか／はい、好きです／いいえ、好きじゃありません、どんな（音楽……）が好きですか／（ジャズ、ロック……）が好きです
3課	9/30	うみが　きれいです 自分の国（町）について話す	（町名）は（海、山、川、公園、教会、お寺、食べ物）が（きれい、有名、静か、美味しい、高い、多い）です、（町名）は札幌より～が（静か、高い、美味しい）です
4課	10/7	まいにち　あさごはんを たべますか 自分の生活について話す	毎日（朝ごはん）を食べますか／はい、食べます／いいえ、食べません、何を食べますか／～や～を食べます（見ます・飲みます・聞きます・します・読みます）
5課	10/14	あした余市に　いきます 予定について話す	（明日……）どこに行きますか／（場所名）に行きます、どこにも行きません、誰と行きますか／（友達……）と行きます、（場所名）で何をしますか／～をVます
6課	10/21	小樽いきのでんしゃは なんじですか 電車の時間やホームを聞く	（小樽……）行きの電車は何時ですか／～時～分です、（小樽……）行きの電車はどこですか／（1番……）ホームです、この電車は（小樽……）に行きますか／はい、行きます／いいえ、行きません
7課	10/28	きのうなにをしましたか 過去にしたことについて感想を話す	（昨日……）何をしましたか／～に行きました、～をVました、～はどうでしたか／とても（楽しかった、良かった、寒かった）です、（きれい、にぎやか）でした
8課	11/4	おんせんにいきたいです 自分のしたいことについて話し、お勧めを聞く	（日曜日……）に（何を、どこに）Vたいですか／～（を、に）Vたいです、（どこ、何）が良いですか／～が良いですよ、（きれい、美味しい……）です
9課	11/11	これは　いくらですか 値段を尋ねたり他の品を見せて貰ったりして買い物をする	すみません、（それ……）を見せて下さい、（これ……）はいくらですか／～円です、もっと（安い、大きい……）～はありますか、（これ……）を（2つ……）ください
10課	11/18	いっしょに　おひるを たべませんか 人を誘って日時などを決める	一緒に～を（に）Vませんか／いいですね、Vましょう／すみません、ちょっと、いつVますか／（日曜日……）はどうですか／いいですね、すみません
11課	11/25	りょうりを　おしえて ください 料理の作り方を教えたり教わったりする	（りょうり）を教えてください／はい、いいですよ、～をVてください／はい、どうVますか／（小さく、大きく、良く、少し……）Vてください
12課	12/2	ともだちにもらいました いつ、誰に、何をあげますか貰いますか	（誕生日……）にプレゼントをあげますか・もらいますか／はい、いいえ……、いつ、誰に、何をあげますか（あげましたか）／貰いますか（貰いましたか）
13課	12/9	レストランに　いきます 飲食店で注文する	いらっしゃいませ、何名様ですか／～名です、ご注文はお決まりですか／はい、～をお願いします、すみません、まだです／飲み物はお決まりですか／はい、～をお願いします、飲み物はいりません

2016 年度　日本語教育特別演習活動記録
―市内ボランティア日本語教室に参加して―

太田　莉央
（英米文化学科 3 年）

2016 年 9 月から 12 月の間、毎週金曜日に札幌エルプラザで行われた『日本語ボランティア・たんぽぽ』に参加しました。私が参加したクラスは初級Ⅰ（ゼロ初級からのレベル）で、授業の時間は 10 時 30 分から 12 時までででした。授業回数は全 13 回でしたが、12 回目までは TA として参加し、13 回目は他の TA 二人と授業を担当しました。

1. 学習者について

国籍は様々でした。地域で紹介しますと北米、アジア、ヨーロッパ、アフリカからの学習者が参加していました。レベルについても様々で、初級Ⅰとはいえ既に単語や文型を多少覚えている学習者もいれば、まだ平仮名を読むことが出来ない学習者もいました。しかし日本語を覚えたい気持ちは皆一緒で授業も真剣に受けていたり積極的に先生や TA に質問をしたりしていました。

2. 授業について

授業前は先生を担当する方が教案を用意して打ち合わせをし、授業後はボランティアのメンバーで反省会をして改善点や学習者について話し合いをしました。先生がほぼ毎回異なっていたため授業の仕方も異なっていましたが、どの先生も学習者の興味を引く内容を考えていたので雰囲気はかなり良かったです。TA も会話に参加してクラス全体が盛り上がったこともありましたし、先生が用意した教材（絵カードやおもちゃなど）で学習者が楽しんでいたこともありました。そして何よりも、学習者が授業で習った言葉を使って一生懸命に、笑顔で会話をしていたことが印象に残っています。

3. TA として参加したことについて

TA とはいえ暇な時間は一切なかったです。先生のアドリブに答える場面はすぐに何を言うか考えなければいけませんし、授業についていけていない学習者がいないか常に確認しないといけません。学習者同士のペアワークではきちんと会話出来るか見ていなければいけません。TA も大変ですが、教えることによって学習者が理解出来たりお礼を言ったりした時はとても嬉しかったです。

4. 13 回目の授業について

「先生」を担当したのは私と他の TA 二人でした。三人とも日本語ボランティアの経験が浅いた

め協力して教案づくりをしました。日本文化学科の中川先生やボランティアの方々から授業の進め方や教案の添削をしていただき、13回目の授業はかなり良いものになりました。教材の見せ方や話し方といった細かい点では反省点があったものの非常に良い経験をしました。

5. 実際に日本語を教える立場になった感想

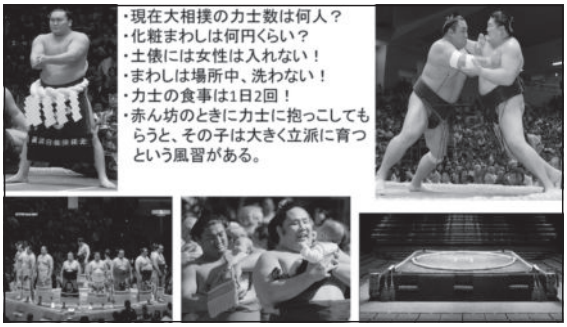
非常に難しかったです。大学の講義で教授法を習っていたものの、「どの場面でどのような教え方をしたら効率が良いか」を考えることは非常に大変でした。また、はじめは学習者の思いがけない質問で困惑してしまうこともありました。私が参加した初級Ⅰは日本人が当たり前のように使っている言葉も使ってはいけないため、簡単な言葉や表現を使おうと意識をすることもかなり大変でした。しかし、上手く教えられた時は嬉しかったですし、学習者と交流をしている時もかなり楽しかったです。学習者に教えているのは「言語」なので教える立場はかなり大変だということを改めて感じました。

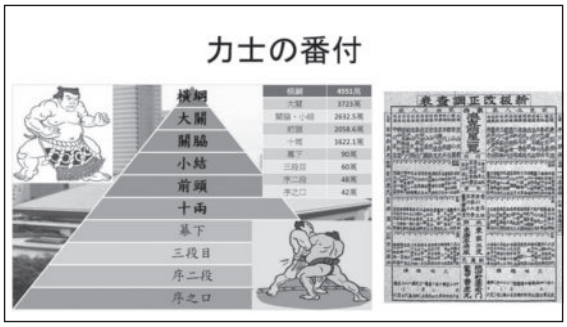
大学入学後に日本語教育について初めて知り、「教えてみたいな」と興味を持ったため、今回実際にボランティアに参加しました。その結果、大変だったこと、苦労したこと、楽しかったこと、嬉しかったこと、様々な経験をしました。先生方はただ日本語を教えるのではなく、常に学習者とコミュニケーションをとるように教えていました。教材はもちろん、身体全体を使って分かりやすく、面白く教えていたので非常に参考になりました。あらゆる面で学ぶことが出来たため、ボランティアに参加して良かったと思っています。

日本語教室の学習者と担当教師、TA の皆さんとともに（前列中央右が私です）

大田大学にて使用した ppt 教材の一部
（「日本文化」の授業）

実習で使用した教材①





力士の給料

横綱	月給 282万円　手当（特別、出張） 120万円、115万円 退職金 1500万円　優勝賞金 1000万円　勤続加算金 50万円 ⇒総額 5000万円＋スポンサー料、懸賞金など
大関	月給 234万円　手当（特別、出張） 90万円、100万円 退職金 1000万円　優勝賞金 1000万円　勤続加算金 40万円 ⇒総額 4000万円＋スポンサー料、懸賞金など
十両	月給 103万円　手当（出張） 68万円 退職金 475万円　優勝賞金 200万円　勤続加算金 15万円 ⇒総額 1600万円
幕下	基本的に無給

テコンドー

・世界206ヶ国に普及しており、競技人口は7000万人を数え、日本の柔道や空手同様、国際的スポーツとなっている。
・1988年　ソウルオリンピックで公開競技種目として実施される。
・2000年　シドニーオリンピックで正式競技種目として実施される。

大相撲で活躍するモンゴル人力士たち

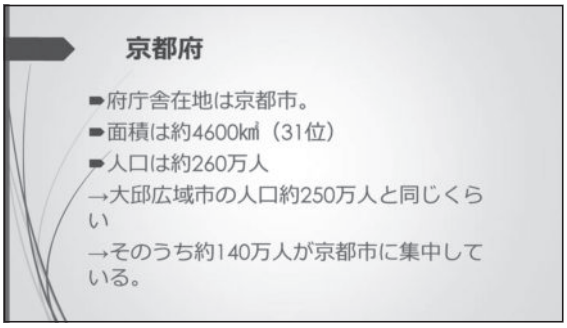
国際色豊かな力士たち

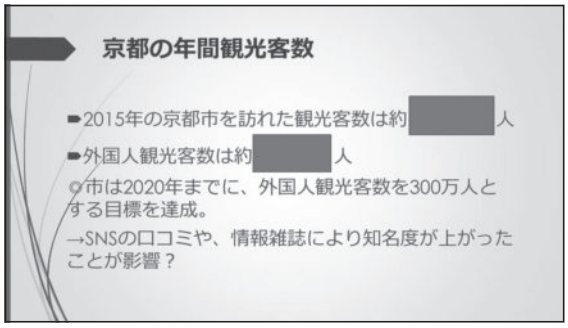
力士の条件と生活

・身長167㎝以上、体重67kg以上の新弟子検査実施日時点で15歳～23歳の男子である。
・朝7:00起床 ⟹ 稽古8:00～10:30 ⟹ 風呂・食事11:30～13:30 ⟹ 昼寝・自由時間14:00～17:00 ⟹ 夕食17:30～18:30 ⟹ 就寝21:00

実習で使用した教材②

京都


京都府
➡府庁舎在地は京都市。
➡面積は約4600㎢（31位）
➡人口は約260万人
→大邱広域市の人口約250万人と同じくらい
→そのうち約140万人が京都市に集中している。


京都の年間観光客数
➡2015年の京都市を訪れた観光客数は約[redacted]人
➡外国人観光客数は約[redacted]人
◎市は2020年までに、外国人観光客数を300万人とする目標を達成。
→SNSの口コミや、情報雑誌により知名度が上がったことが影響？

京都に対するイメージ
・日本らしい場所
・歴史的建造物が多い。
・伝統的な街。
など…

京都の景観条例
マクドナルド
ハンバーガー
McDonald's

京都の景観条例

→他にも建物の高さを規制する制度も採用している。

金閣寺（きんかくじ）

・正式名称は鹿苑寺(ろくおんじ)

・足利義満(あしかがよしみつ)が1397年「北山殿(どの)」と呼んでいた別邸。義満の死後、鹿苑寺と名付け、寺とした。

清水寺（きよみずでら）

急な崖に、最長約12メートルの巨大な欅(けやき)の柱を並べ、釘を一本も使わずに組み上げた木造建築。

本堂から張り出した「舞台」は4階建てのビルの高さにあたり、京都市街の眺めは絶景。

「清水の舞台から飛び降りる」という言葉の語源となったのが、この場所です。

伏見稲荷大社

➨どこまでも続く千本鳥居は幻想的で、多くの観光客から大人気。

➨実際の鳥居の数は、3000本超。

伏見稲荷大社

鳥居を奉納することにより、商売繁盛のご利益がある。

5号で柱の直径が15㎝。

10号だと30㎝。

鳥居には、奉納した会社の名前が書かれている。

＊1号＝3cm

参考：http://inari.jp/gofinza1300/

伏見稲荷大社

➨おもかる石

奥社奉拝所の奥にある２本の灯籠の頭にあたる石のこと。灯籠の前で願い事をしてから、この石を持ってみて、予想より軽ければ願いが叶い、重ければ叶わないといわれている。

卒業生の海外レポート　No.3

「日本語パートナーズ」プログラムに参加して

岡田　佳子
（2016 年 3 月　日本文化学科卒、日本語教師養成課程修了）

朝 4 時、閑静な住宅街にアザーンが響き渡る。インドネシアのジャワ島西部に位置するバンドゥンは、ジャワ人に次いで人口の多いスンダ人が生活する西ジャワ州の州都である。スンダ語が話される「スンダ地方」の中心地でもあり、植民地時代に政治・経済・文化の中心地の 1 つとして発展した。また気候的にも比較的涼しく過ごしやすい事から「ジャワのパリ（Paris Van Java）」と呼ばれ、多くの外国人が居住していたということだ。ジャカルタからは車で約 3 時間、週末になると避暑と自然を求めて多くの人がバンドゥンを訪れるそうだ。そのため週末は特に道路は渋滞する。街中の渋滞も常態化しており、車に加えて車の間を縫って走る神出鬼没なバイク・バイク・バイク…そんな道路を向こう岸へ横断する神業的歩行者。車もバイクも停まってくれないので私はといえば未だに通りの向こう岸へ渡るのにタクシーが必要だ…と言うと（半分本気）生徒たちは爆笑しつつ車の止め方を教えてくれる。

授業風景　カウンターパートの先生と

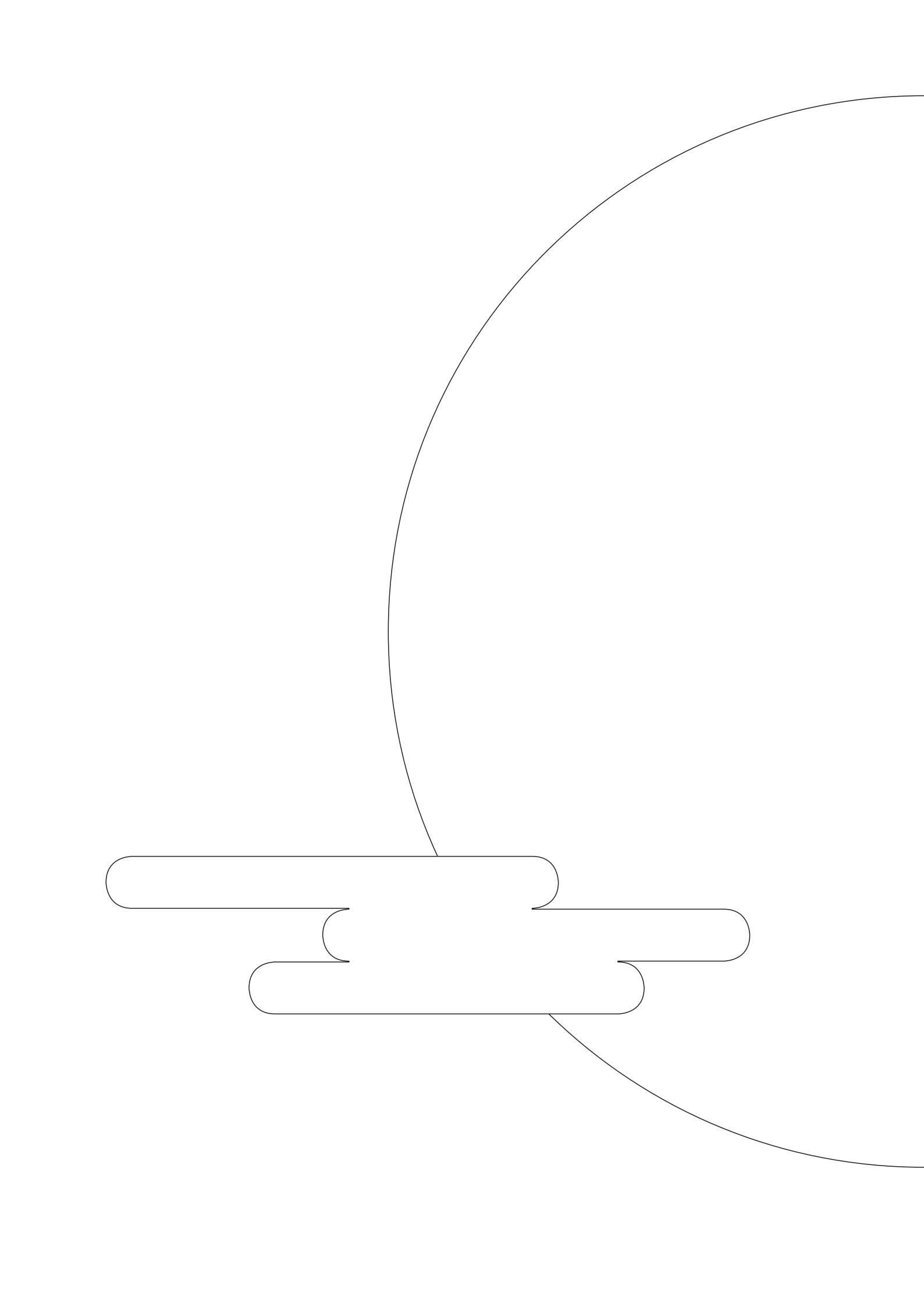
私がここバンドゥンで暮らし始めてそろそろ 4 か月になる。国際交流基金が行っている日本語パートナーズ（以下 NP）という事業に参加する機会を得て、バンドゥンの 2 つの国立高等学校に派遣されている。とても乱暴な言い方をすると日本語の ALT みたいなものである。インドネシアの高校には日本語の授業があるのだ。英語の ALT との一番の違いは、NP の主たる目的はインドネシア人生徒の日本語能力の向上ではない。日本語を通して日本のファンを増やすことにある。お茶や習字など日本文化の紹介も重要な仕事の一つだ。

インドネシアの高校は朝の 6 時半から授業が始まる。私が入っている日本語の授業は 1 コマ 40

分～45 分で 2～3 コマ連続授業である。高校生が暑い教室で 90 分～120 分続けて勉強するのだ。休み時間も毎時間ある訳ではない。そんなに集中力が続くのかと思っていたら、生徒たちはトイレに行ったり、寝たり勉強したりと適当に息抜きしながら授業に参加している。私はと言えば一校目から授業がある日は、最初に登場したアザーンを目覚まし代わりに起き出し、6 時過ぎには家を出て徒歩 15 分の通勤。慣れるまでは授業中が暑くて長くて疲労困憊であった。アザーンとはイスラム教における礼拝への呼びかけで、点在するモスクから一日 5 回大音量で放送される。インドネシアは人口の 70～80％がイスラム教という世界最大のイスラム教徒を抱える国だ。女性の多くはヒジャブ、ジルバブと呼ばれる布で髪を隠している。人によって様々だが女子高生も例外ではない。女子の制服は長袖シャツに足首まである長いスカートで腕も脚も隠している。長いスカートの下には万が一に備えて？暑いこの国でもスパッツ様のものをはいている。男子はシャツにズボンと日本とあまり変わらない。私に道路の渡り方を教えてくれる心優しい高校生たち。男子も女子も無邪気で礼儀正しく、私のつたない日本文化紹介の授業も全力で楽しんでくれる。

学校生活で面白い事は、先生たちが（又は賄の方）職員室でご飯を作って食べることだ。「スダー・マカン？」「もうご飯食べた？」が挨拶のお国柄だ、何より食べることが優先されているように感じるくらい、いつも誰かがご飯を食べているという印象だ。持参のお弁当やパンをかじっているというのではなく、職員室についている台所や食堂で作ってお皿に盛って本格的に食べているのだ。ある時は麺料理、ある時はスンダ料理とバラエティも豊かで、私にも食べろ食べろと賑やかに勧めてくれる。私も一度職員室でたこ焼きを焼きながら振舞ったことがあるが、やんややんやの賑わいであった。先生たちも無邪気に楽しむ術を知っていて、大好きな時間である。私の派遣期間もあと 40 日ほどで終了する。ホッとする反面、寂しくもある。日本の大学に進学する生徒がいるかもしれないというような気持ちでいるだろう。後悔だけはしていたくないものである。怒涛の日本文化紹介をこなしながら残りの毎日を大事に過ごそうと改めて考えた今である。

職員室で食事を用意する先生

北 海 学 園 大 学
日本語教員養成課程報告書　第 3 号

編　集　北海学園大学日本語教員養成課程委員会　（委員長　中川かず子）
発行日　2017 年 3 月 31 日
発　行　北海学園大学日本語教員養成課程委員会
〒 062-8605　札幌市豊平区旭町 4 丁目 1 番 40 号
TEL（011）841-1161（内線）2621（中川研究室）／ FAX（011）824-7729